# 象嵌装大刀に命を吹き込む匠の世界

木工 | 木工藝もりち 森地正和 氏

鋳造 | 和銅寛 小泉武寛 氏

鍛金 | 中村栄順 氏

彫金 | 小林彫金工芸 小林正雄 氏

細部に至るまで緻密に再現された象嵌装大刀のレプリカ。その裏には、専門の職人たちの「匠」の技術がありました。

中尾地下式横穴墓群で見つかった象嵌装大刀。その後のCTスキャンなどの科学調査により、たいへん貴重な大刀であることが解りました。象嵌装大刀がいったいどのような大刀だったのかを、現代に蘇らせるべく再現レプリカの製作を依頼。そこには、現代の名工による匠の技術が凝縮されていました。

## 文化財研究のプロフェッショナル「元興寺文化財研究所」による象嵌装大刀のレプリカ製作に密着！

中尾地下式横穴墓で発掘された象嵌装大刀は6世紀頃に、当時の政権の中枢と考えられている近畿地方で作られたものが、大隅へ送られたのではないかと考えられています。当時の鉄刀では珍しく、刀のツバの部分に象嵌がほどこされており、これは全国でも十数件ほどしか発見されていません。おそらくは、大隅にいた身分の高い方への贈り物だと考えられます。このような古代遺物のレプリカ（再現品）を作る際には、各パーツをそれぞれ専門の職人に振り分けて作ります。今回は「鋳造」「鍛金」「彫金」の3つの行程に分けており、それぞれの職人が、できるだけ当時の製作技法をもちいながら、細部にいたるまで再現します。実際の出土品をX線などの科学分析を行い、実測図を描き起こし、部品が破損して解らない部分などは、同時代の類似した物を参考にしながら作り上げていきます。

象嵌装大刀を見ると、当時の技術や人々の美意識などが、解ってくるのではないでしょうか？

（財）元興寺文化財研究所 研究部
金属器保存研究室 土器修復室
室長 塚本 敏夫 氏

## 象嵌装大刀を蘇らせた、匠の技に迫る

### 鍛金（たんきん）

金属工芸に用いられる技法の1つで、金属に熱を加え槌（金槌）で叩き加工する技法。金属に熱を加えると伸び縮みする特性を活かし、形をつくっていきます。

### 木工（もっこう）

かんな、のこぎり、のみ、やすりなどを使って、木材を様々な形に加工します。金属加工に比べ、より繊細な形状を表現することができます。

### 鋳造（ちゅうぞう）

金属材料（鉄・アルミ・銅など）を融点よりも高い温度で熱して液体（溶融金属）にし、型（鋳型）に流し込み、冷やして目的の形状に固める加工方法です。

### 彫金（ちょうきん）

鋳造または鍛造（たんぞう）された金属器の表面に、文様を彫ったり、透かしたり、他の金属を嵌（は）めて装飾したりする金工の加飾技法です。